会議録（1）

会議の名称	令和６年度第２回飯能市地域包括支援センター運営等協議会
開 催 日 時	令和６年８月２８日（水） 開会　午後１時３０分　　閉会　午後２時４７分
開 催 場 所	飯能市総合福祉センター　３階　会議室１
会 長 氏 名	大野　　康
出 席 委 員	石川　友仁　　打田　瑠美　大野　　康 小田　晋平　　黒見　恵　　齋藤　　明 角田　七重
欠 席 委 員	大野　泰規、池田　徳幸
傍聴者の数	０人
会 議 次 第	別紙のとおり
配 布 資 料	別紙のとおり
事　務　局	福祉部長　　五十川　美也子 介護福祉課長　　堀川　和義 主幹　　佐野　誠治　　主幹　　井上　実可 主幹　　栗島　祐介　　主査　　星井　華子 主任　　粕谷　健悟　　主任　　三村　和也 主事補　大松　春乃

会議録（2）

議 事 の 概 要 （ 経 過 ） ・ 決 定 事 項
1　開会 2　あいさつ 3　議題 （1）地域包括支援センターの活動報告について （2）地域包括支援センターの収支決算について （3）条例改正について （4）地域密着型サービス事業者の公募について （5）その他 4　閉会

会議録（3）

発言者	発　言　内　容
佐野主幹	（開会）
大野会長	（あいさつ） 「（１）地域包括支援センターの活動報告について」を議題とする。
堀川課長	（資料１に基づき説明）
大野会長	資料（１）について質問・意見を伺いたい。
打田委員	みなみ町の業務はいつも大変と感じている。特に電話相談件数の多さに驚いている。
角田委員	同じ対象者の対応も合わせた相談件数となっている。
堀川課長	（資料２に基づき説明）
大野会長	資料（２）について質問・意見を伺いたい。
打田委員	みなみ町の報告書は支援者や参加者が楽しむ様子を読み取ることができ、具体的で分かりやすい内容となっている。
齋藤副会長	基幹の報告書にある地域ケア会議について、個別ケースや地域課題の検討とあるが実際に地域ケア会議を開催し、どのような地域課題が抽出されたのか知りたい。抽出された地域課題が条例に関係する問題なのか制度の問題なのか詳細がわかると思う。次回以降は抽出された課題を報告書へ記載していただきたい。
星井主査	自立型地域ケア会議は、ケアマネジャーが担当するケースに対し、専門職がアドバイスを行い、ケアプランに対して利用者の自立支援やケアマネジメント能力の向上を図る目的で開催されている。必ずしも毎回地域課題が挙がるということでないが、山間部の方においては社会資源や支援者が少ないという課題は挙がっている。
齋藤副会長	いなり町報告書の権利擁護推進の施策で今年度より介護福祉課と定期的に評価会議を開催するとの記載がある。虐待の場合、最終判断が

	難しく、その点において話し合いを行い、連携することはよいと思う。虐待対応を進める中で重要なのは対応会議と評価会議を繰り返し行うことであるが、どのような体制で会議を開催しているか知りたい。
佐野主幹	虐待終結の判断ができず保留となっているケースが多いため、社会福祉士を中心に評価会議を行い、終結に向けた検討を行っている。
齋藤副会長	保留となっているケースに対し、終結を判断する会議という点はよい会議であると思う。
大野会長	「（２）地域包括支援センターの収支決算について」を議題とする。
堀川課長	（資料３に基づき説明）
大野会長	議題（２）について質問・意見を伺いたい。
打田委員	近隣市町村で黒字に転じている包括はあるか。
角田委員	包括だけではなく、他の介護事業所も全体を総じて考える必要があり、飯能市の市民を支えるためにもやむを得ない部分である。
大野会長	各包括ごとにどの分野が厳しいかなどを汲み取り、包括運営を円滑に進めるために考えていただきたいと思う。
石川委員	さかえ町は職員が長期的に勤めており良い点ではあるが、キャリアパスを進める中で必然と人件費が上がっている。今後増員を検討しており、人件費などについては考えていただきたいところである。
角田委員	人件費が高騰している状況で、みなみ町だけは黒字と記載あるが、介護予防支援事業所のケアマネジメント等の業務が多いことで黒字に転じており、収支に反映されている。職員の業務負担が大きい点についてはご理解いただきたいと思う。
齋藤副会長	委託料の見直しは検討しているか。
堀川課長	委託料に関して、全国平均の基準をもとに各職種の単価が決まっており、その中で算出している。
齋藤副会長	今後、委託料の増額に繋げることができるか。
堀川課長	全国平均や市の指標をもとに判断しているため、検討が必要である。

齋藤副会長	全体の指標の大枠が決まっているため、全体的なバランスを取る方法しかないということか。
五十川部長	委託料の中に人件費は含まれており、法的に変更があればその都度対応していくが、明確な増額については現時点ではお答えできない状況である。毎年ヒアリングにて各包括の実情を伝え、折衝を重ねているため、継続していきたい。
大野会長	介護業界は人材が重要であるが、給料が良い場所へ人材が流れやすい業界でもあるため、人材確保や育成はとても大切と感じている。単に収支だけではなく、各包括の努力も汲み取って、次年度へ反映させていただきたいと思う。 「（３）条例改正について」を議題とする。
堀川課長	（資料４に基づき説明）
大野会長	議題（３）について質問・意見を伺いたい。 ２０４０年までは包括が担当する件数は増加し、その後は減少傾向と予測されている。国の情勢に基づいて市町村においても条例を変更していく体制をとっている。 「（４）地域密着型サービス事業所の公募について」を議題とする。
栗島主幹	（資料５に基づき説明）
大野会長	議題（４）について質問・意見を伺いたい。
打田委員	応募がないと事業は進められないことになるのか。
栗島主幹	各事業所の責任において整備してもらう必要があり、応募がない場合は整備を進めることはできないが、次年度も公募を行う予定である。
打田委員	事業者からの応募がない理由はあるのか。
栗島主幹	本市は市域が広く、山間地域も多いため、手挙げが少ないと考えられる。今年度に入ってから問い合わせもあるため、応募を期待している状況である。

大野会長	第９期計画で掲げた目標に準じ進めているところである。平成２８年度、令和４年度と応募がなかった要因を分析する必要はある。
栗島主幹	今後、応募があった際は庁内の選定委員会で選考した後、本協議会へ地域密着型サービス事業者の選定について諮問させていただく形となる。
大野会長	ケアマネジャーの視点から何かあるか。
小田委員	担当する利用者の中で夜間型の訪問介護が必要となった際、他市町村へ相談するが空き状況や距離の問題で断られてしまい、サービスの代替えを考えなければならない状況である。 山間部で利用できる訪問介護や訪問看護のサービス提供者がおらず、最悪の場合住居を移してもらうことが必要と家族へ伝えた事例もあり、山間部のサービス調整は困難な状況と感じている。
大野会長	飯能・日高地区ワールドカフェで在宅で生活する方を事例としてサービス調整を検討する研修を行う予定である。市として様々なサービスを増やしていきたい中で人材や予算が強く影響してくると実感している。
齋藤副会長	事業開設を進めていきたいが金銭的に経営が困難なケースもあると思うが、期待を込めて進めていくしかないと思う。
打田委員	介護サービスを利用していない側からすると夜間対応は行ってもらえると思っているため、現実との乖離が生じることも考えられる。実際に夜間帯のサービスを利用したい人も多いのではないか。
小田委員	夜間型のサービスを利用したい人も多いが、過度に介護サービスへ固執する方もいる。短期間の対応は可能でも継続的に利用できる事業所を探すことは難しく、インフォーマルな部分で対応せざるを得ない状況にある。
黒見委員	財産管理や後見人、経済的な虐待等、法的な部分で困った際は相談していただければと思う。
石川委員	小規模多機能型居宅介護を推進する利点としては同じ職員が訪問介護、デイサービス、入所サービスで関わることができる点であるが、運営側にとっては大変なことである。その中で飯能市が推奨する理由はあるのか。

栗島主幹	ニーズ調査等に基づいて整備計画を立てており、小規模多機能型居宅介護のニーズが高いことが理由である。
大野会長	（５）その他について質問・意見を伺いたい。
打田委員	猛暑が続く状況下において現場で働く職員の負担について伺いたい。
角田委員	入所施設を持っているため、空調管理は徹底して行っている。その中で電気代の高騰が施設運営に大きく影響している。今年は熱中症やコロナ感染が多かったようで、入院からの受け入れが増加したと聞いている。
大野委員	各包括の報告の中で、熱中症で救急車を呼んだが到着までに時間がかかり、水分等の対応をする必要があったと課題の記載がある。全国的には高齢者世帯は空調を使用しない人も多く、例年よりも熱中症が多いと感じる。
角田委員	自宅へ訪問した際に空調を入れるが消してしまう方も多く、現場職員は苦労している。
小田委員	訪問予定がない利用者についても近くに寄った際は空調の確認を行うなど対応している。今後も気温が上昇していくと思うため、職員の体調管理も徹底していく必要がある。
佐野主幹	次回、１１月２７日（水）１３時３０分より総合福祉センター会議室１で開催予定。
齋藤副会長	（あいさつ）

議事のてん末・概要を記載し、その相違ないことを証するためここに署名します。

令和　　年　　月　　日

議長の署名　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿